

口語詩句総評 2月

真冬を越えて春の光に当たると、また1年生き延びたな、と感じるのはわたしだけでしょうか。口語詩句の選では、言葉が軽くて開かれていて、それでいて深い作品を評価しています。

今月の気になった作品は以下です。

「主文、蛍を自由の刑に処す」 ——長谷川柊香（宮城県）

虚数 i

愛は虚しい

わたしもむなしい ——花浮希海（千葉県）

母の孤独は私の形をしていない ——燐嗣いとり（愛知県）

覚えるのがきらい

思い出すのは好き ——永井瀬月（神奈川県）

たましいに色があるなら

からだは透明でいい ——梁川梨里（群馬県）

二秒後に世界を消して

二分後にたばこをふかすなど

しましうか ——白野（新潟県）

いななきが
画面に表示されている —— 暮田真名 (東京都)

人は一人では生きていけないって
誰か確かめてみたのかい —— こんし (愛知県)

秋亜綺羅
aa@akiakira.com